

国語 第4学年 言葉を選んで詩を書き、友達と読み合おう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：気持ちが変わったときの様子を表す言葉を選んで詩を書き、読み手に浮かんだ様子と作者の意図を比べる。好みの評価で終わらせず、どの表現によって何が伝わったかを交流する。B(1)オの学習として、自作詩と表現の検討メモ。表したかったこと、読み手に伝わったこと、残した語句、直した語句と理由を記録する。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、書こうとしたことが明確になっているか感想を伝え合い、自分の詩の表現のよさを見付けているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。B(1)オの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：自作詩と表現の検討メモを残す。表したかったこと、読み手に伝わったこと、残した語句、直した語句と理由を記録する。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、B(1)オに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：技法を使った数でよさを決める。読み手の意見を全て受け入れて作者の意図が消える。これについて、作者は先に意図を説明せずに詩を読んでもらう。読み手は印象と、その根拠の言葉を示す。作者は感想を聞いた後で残す表現と直す表現を選び、その理由を話す。〔知識及び技能〕(1)オとB(1)オを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「書いた人が表したかったことは、どの言葉から伝わりましたか。同じ様子が浮かんだ所と違った所はどこですか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、B(1)オに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：自作詩と表現の検討メモは紙に記録できる。表したかったこと、読み手に伝わったこと、残した語句、直した語句と理由を記録する。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をB(1)オの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。B(1)オで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：作者の意図と違う感想は誤読なのか。

返し：B(1)オに沿って、何を根拠にそのように感じたかを聞く。本文に根拠のある感じ方の違いは作品を見直す材料になる。教師が作者の意図だけを正解にしない。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「書いた人が表したかったことは、どの言葉から伝わりましたか。同じ様子が浮かんだ所と違った所はどこですか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。B(1)オに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

